



みやがわ のりみつ
宮川 徳光 議員

施政方針

3期目の基本的考えは 官民共働で町の総合戦略

問 大西町政が3期目のスタートを切ったこの機に、今後4年間の施政方針の基本的な考えを問う。

答 大西町長

3期目については、これまでを振り返り体系的な総括を踏まえて策定した「黒潮町総合戦略」の着実な実施と不断の見直しに尽きる。その上で、各種施策の立案、推進に際し、いかに官民共働の体制を構築するかが大変重要だ。ふるさと・キャリア教育や、地域包括ケアシステムの構築、各次産業の後継者対策なども、各事業所、各産業従事者の皆さんとの連携がなければ効果が限定的であることは明らかだ。なお、防災面においては、既にその方向性で進んでおり、これが黒潮町の防災の最大の特性とも言えるまでになっている。

今後いかなる社会環境の変化にあっても、ひるむことなくしっかりと事前の準備を行い、住民の皆さんが将来にわたって幸せに暮らし続けていただけのように、町の将来を建設していきたい。

環境問題

町の認識と 取り組みは 各実施計画 により対応

各実施計画により対応

問 地球規模での温暖化や大気汚染、また、家庭ゴミや海洋汚染源のプラスチックゴミなどの問題が年々、深刻さを増す状況となっているが、町の認識と取り組みは。

また、「EM(イーエム)活性液」や「くろしお元気AI(あい)」を活用しての住民や町の環境改善の取り組み状況を問う。

答 尾崎 税務兼住民課長

町は、温暖化対策として、平成25年度から第2次地球温暖化対策実施計画を策定し、温室効果ガスの排出削減に努め、町役場の取り組み状況として二酸化炭素排出量を町広報誌にて公表している。

併せて、ゴミの適正処理のため、一般廃棄物処理実施計画を策定しゴミの

資源化による一般廃棄物の減量化を推進し、町民、事業者、行政が、「分ければ資源、混ぜればゴミ」をスローガンに、ゴミの適正処理に取り組んでいる。プラスチックゴミの問題は、海岸を有する各国に共有し、国内でも、河川の上流域の自治体を含めたゴミ減量化の協議なしでは改善は見込めず、県を通じて呼び掛けをしていきたい。

当町住民の環境改善の取り組み状況は、EMを培養の佐賀漁協女性部と、くろしお元気AIを培養の黒潮エコクラブの皆さんなどが当町の環境対策に尽力されている。これらの活用例として、町内の小中学校のプール清掃でも大活躍とのこと。

町としては、毎年開催の四国EMフェスタへの住民の皆さんの参加をいただき、学習や他団体との交流を深めることで、今後の活動へ生かしてもらっている。また、美しい自然を守るため、生ごみの減量化対策として、コンポストやEMボックス購入者への補助事業や、使用するEMばかしの講習会を行っている。

なお、今年度、教育委員会が取り組むふるさと・キャリア教育事業としてEMばかし作りを企画し、次世代を担う子どもたち

「魚や貝を通じてプラスチックを食べている」という研究結果が



英ハル大学とブルネル大学ロンドンの共同研究チームは、2018年6月、英国のムール貝を対象にマイクロプラスチックの含有の有無を調査し、その結果、検査したすべてのムール貝にマイクロプラスチックが含まれていたと発表した(Newsweekより)

に、家庭、学校だけではなく地域の方々と触れ合っ、黒潮町の環境について一緒に考える場を提案している。

【その他の質問】

耐震改修工事を急げ